
遊戯王～Parallel Story～

ミミック

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王（Parallel Story）

【Nコード】

N8735Z

【作者名】

ミミック

【あらすじ】

5Ds・ZEXALとは別の世界一

「No.」と呼ばれるカードを遺し、行方不明となった恩人。二人は恩人の手がかりを求め、様々な困難に立ち向かうー

初投稿です。

低クオリティ、不定期更新ですがよろしくお願いします。

プロローグ（前書き）

初めまして。

ミミックです。

初の遊戯王作品なので、ミス等目立つと思いますが、応援お願いします。

プロローグ

―とある豪邸―

四人の人影があつた。

長身の青年、小柄な少年、二人を心配そうに見る少女。そして、贅肉をゆらし怒りをあらわにしている景気の良さそうな男―

「あんたの悪事はもうマスコミに広めた。どうあがいても、終わるだ。」

小柄な少年はけらけらと笑いながら男を挑発する。

「……何故だ！何故そんな忌まわしい小娘を庇う！」

男は唾を散らして怒鳴った。長身の男は、淡々と

「それが、今回の仕事だからだ。」

と言った。

凍てつくように寒い、午前2時ごろの出来事だった。

第1話：悪党よりも悪党で（前書き）

今回デュエル無しです。

あれ？入れるつもりだったのになあ…

第1話：悪党よりも悪党で

―とある豪邸―

少女、緋色かなめは疲れていた。

その原因は―

「おいっ！飯はまだか！！」

と贅肉を震わせ怒鳴っている、成金なりかね 金造きんぞうという彼女の養父である。彼は元々緋色家の経営する会社の幹部にであり、かなめの父が行方不明になった後社長の座を乗っ取り彼女を引き取った。

彼は彼女の親族がいないのを良いことに、昼夜彼女をただ同然で働かせ、時には虐待をしている。

―自殺。

まだ幼い少女にそう考えさせるには、十分な環境だった。

「はあ…」

仕事の終わった夜、彼女の机にはナイフが置かれていた。

「お父様、お母様」

最愛の二人を想い、喉元にナイフを刺そうとしたとき、

「痛っ！」

別の声がしたかと思うと、ナイフの刃を掴み、喉元寸前のところで止めていた。

「あ…あなたは…？」

と、言う年にしては小柄なその少年は

「雑賀 奏太…探偵さ」

と言って、何が面白かったのか、けらけら笑っていた。

「…探偵さんが、なんの用ですか？そもそも、どうやって中に？」

「僕の相棒がここの警備を引き付けて、その間に君のところに来た。後、なんの用かってーと、君のお父さんから、娘を助けて欲しいって依頼が来てね。警察は、しょーこふじゅーぶんって動かないらしい。ホント警察ってのは……」

彼は愚痴を言っているが、かなめの耳には入らなかった。父は自分の事を守ろうとした……そのことで彼女は頭が一杯だったのだ。

「じゃ、早速ずらかりますぜ！」

一通り愚痴を終えた奏太は、かなめの手を掴んだ。

「で、でも出口はすごい鍵がかかって……」

「セキュリティのこと？　おいおい、俺達がどうやって侵入したと思ってるんだい？　んなもん、ハッキングして壊したよ。」心配するかなめにドヤ顔で言う奏太。

「ハッキング……？　本当に何者なんですか？」

「だから、ただの探偵だって！」

屋敷を脱出した奏太とかなめ。

「おーい、銀さーん」

奏太が大声で呼びかけると、

「その呼び方止めろって」

と、いかにも探偵だ、

という感じの服を着た男があらわれた。

「依頼の人物と証拠は？」

「バッチリっす！」

冷静に聞く男と、元気な奏太。二人の温度差に戸惑っているかなめに

「君が、緋色かなめか。俺は四条銀次。君の父親から依頼を受けた時、彼から手紙を預かっている。」

と、言いかねめに手紙を渡した。直後……

「ぜえ……ぜえ……まで！」今回の依頼上での要注意人物、成金金造があらわれた。

「こんなことをして…ただですむと思うなよ!」「こんなこと?」
興奮する金造に、あくまで冷静な銀次。

「とぼけるな!うちの警備員、セキュリティをひとつ残さずボロボロにしやがって…!犯罪だ!

「犯罪…ねえ。お前がしてきた悪事の数々に比べれば、可愛い物じゃないか。」

「なんの事だ…!!」

「はいはい!証拠ならあるよ」

二人の会話に割り込む奏太。

「あんたの部下から聞いたよ。不正献金、使い込み…後、家政婦の皆さんから、かなめちゃんへの扱いも聞いたよ。あんた、人望ないねえ…」

証拠をつき出され、絶望する金造。

「な…何故だ!何故お前らはこんななんの足しにならん忌まわしい小娘を助ける為にここまでする!」

銀次は、多少呆れながら、

「それが…俺の仕事だからだ。多少無理してでも父親…依頼主の要求には答えねえとな。」

と、言った。

「まあ、お前の言うことも一理ある。確かに俺らのやった事は犯罪だ。」と、言い

「デュエルだ。お前が勝ったら俺らを警察につきだすと良い。お前が負けたら、警察へ…どうだ?」

「デュエル…だと?良いだろう。貧民ごときが、思いしると良い!」

「そうか…なら…」

銀次が不敵に笑い、

「「デュエル！」」

「闘いが、始まった。」

第1話：悪党よりも悪党で（後書き）

すいませんでした：

途中ノリノリで書いていたらいつの間にか遊戯王じゃなくなって：
急いで展開修正したら、なんと　い　う　超　展　開
一応ここでデュエルを挑んだ理由は次話で描写
します。

主要な登場人物 1 (前書き)

とりあえず、主な登場人物です。

この話の設定は仮面ライダーWをかなり参考にしております。

主要な登場人物 1

四条 銀次 (しじょう ぎんじ)

性別…男

年齢…21

本作品での主人公。

12歳のとき、とある理由で家族に見放される。途方に暮れていたところを雑賀 仁朗に拾われる。基本的になんでもこなす高性能お兄さん。

ハードボイルドを気取るが、奏太達に振り回されボロが出ることが多い。少し変わった趣味をもつ。

使用デッキ

【悪魔+エクシーズ】

雑賀 奏太 (さいが そうた)

性別…男

年齢…16

雑賀 仁朗の息子であり、父の情報網を受け継ぎ 探偵業では主に情報収集をする。

オタク趣味を持っていて、よく謎発言をしている。

見た目は背が低く女の子っぽく(というより男の娘) 一目で男と分かったのはかなめくらい。

銀次を兄のように慕っていて、「銀さん」と

某侍漫画のような愛称で呼んでいる。

使用デッキ

【トークン】

緋色 かなめ (ひいろ かなめ)

性別…女

年齢…12

大企業「緋色カンパニー」の一人娘。

両親が行方不明になり、成金家の養子になる。

虐待と労働に嫌気が差し、自殺を図ろうとしたところ奏太に救われる。

幼い時から苦勞しているのも、大人びた性格で、銀次、奏太の暴走を止めたりすることも。

洞察力も鋭く、奏太を

一目で男と見抜いた。家事の腕は一級品だが、デュエルの腕は発展途上。使用デッキ

【スターダストドラゴン】

雑賀 仁朗 （さいが しろう）

性別…男

年齢…41

奏太の父親であり、

「No.」のカードを二人に遺した張本人。（5D Sの雑賀とは無関係）

行方不明になる前は裏社会の情報屋を営んでいて、多数の人物を破壊させていた。せめてもの償いとして 身寄りのない子供を養っていた。

ある日、デュエルモンスターズの脅威に気がつき、特に才能のある二人に カードを託し、行方をくまます。

主要な登場人物 1 (後書き)

銀次 鬼柳 (満足町長 v e r)

奏太 バカテスの秀吉

かなめ 遊戯王 T F の瀬良あゆみ

仁朗 まんま 5 D s の雑賀

容姿のイメージです。

質問、間違いなどありましたらお願いします。
次回は本編です。

第2話 「No.」のカード（前書き）

今回はデュエルです。

まだ慣れていないので、間違い・疑問などございましたら、ご指摘お願いします。

荒らし、中傷などは作者のLPは0よ！になりますので、NGです。

第2話 「No.」のカード

side…銀次

「デュエル！」

四条銀次 LP8000

成金金造 LP8000

「わしの先行、ドロー！」

金造がカードを引く。

さっきの奇妙な自信、野心的な行動…あのカードを持っていると思うが…

「わしは、カードを一枚セットし、ターン終了！」

成金金造 LP8000

手札5枚

あまり動かないな…

「俺のターン、ドロー。俺は、ジャイアントウィルスを召喚。そのままダイレクトアタック。」

球体のウィルスが、金造を襲う。

ジャイアントウィルス ATK1000

成金金造

LP7000

「罠発動！ダメージ・コンデンサー！手札を一枚捨てて発動。受けたダメージ以下の攻撃力を持つモンスターを特殊召喚する！いでよ！成金忍者！！」

成金金造

手札4枚

成金忍者 ATK500

金造の場に、豪華な装飾の忍者（？）が現れた。

「：俺は強欲なカケラを発動。カードを一枚伏せて、ターンエンド。」

四条銀次LP8000

手札3枚

「ふん！その程度でわしに勝てるか！ドロー！！いでよ、黄泉ガエル！」

頭の上に輪があるカエルが現れる。なるほど、さつきコストとして墓地に送ったのか。

「更に成金忍者の効果発動、手札の罠一枚を捨て、デッキからLV4以下の忍者を特殊召喚する！現れろ、機甲忍者フレイム！」

機甲忍者フレイムATK1700

「機甲忍者フレイムの効果で自身のLVを一つあげる！更に、黄泉ガエルをリリース、LV5の機甲忍者アースを召喚」

機甲忍者アースATK1600

機甲忍者フレイムLV4↓5

LV5が二体：くるか？

「さて：まずはその目障りな屑を片付けよう。アースでジャイアントウイルスに攻撃！」

四条銀次

LP7400

「ジャイアントウイルスの効果！戦闘で破壊された場合、相手に500ポイントのダメージを与え、デッキから二体のジャイアントウイルスを特殊召喚する！」

成金金造

LP6500

「構わん、フレイムよ、その屑を蹴散らせ！」

「罨発動！ドレインシールド！相手の攻撃を無効にし、その数値分回復する。」

四条銀次

LP9100

「小賢しい…わしはフレイムとアースでオーバーレイ！エクシーズ召喚！深紅の影よ、我が為に下僕に無敵の肉体を！？12機甲忍者クリムゾン・シャドー！！」

金造の腕に、12という刻印ができ、深紅の忍者が姿を現した。

やはり？か。この男が急速に力をつけたのも、このカードのおかげか…。

「わしは成金忍者を守備表示に変更し、ターンエンド。このカードがある限り、わしに敵はいない！」

成金金造LP6500

手札3枚

「……俺のターン！この瞬間、強欲なカケラのカウンターが一つのる。」

強欲なカケラ（0↓1）

「俺は、死者蘇生を発動。墓地から、ジャイアントウィルスを特殊召喚。……？はお前だけのものってわけじゃあない。俺は、三体のモンスターでオーバーレイ！破滅の意志よ、俺に力を！エクシーズ召喚！？96ブラック・ミスト！！」

俺の前に、96の刻印を持つ、残虐性を露にした悪魔が現れた。

side…奏太

やっぱり、あのおっさんNO.のカードを持ってたか。

「あの…なんで銀次さんはデュエルを挑んだんですか？あのまま警察につきだせば、侵入もうやむやにできたかも知れないのに…。」
かなめちゃんが不思議そうに聞いてくる。

「ん…、あの『NO.』ってカードがあるだろ？あのカードはカード自体が強力な力を持っていて、持ち主の精神に変調を起こす。僕と銀さんは、あいつがそのカードを持っていると想着てデュエルを提案したんだ。」

「そんなカードを、なんで集めているんですか？」

「えっと、何て言えば良いかな…？」

僕が返答に困っていると、銀さんが動き出した。

side…銀次

「貴様もNO.のカードを…」

金造が驚いている。

「まあ、この力の代償が無いって訳じゃあない。」

そう言って、俺は自分の灰色に変色した片目を指差す。

「このカードの影響を防ぐための手段はとってあるさ。」

「貴様…何者だ？」

「しがない探偵さ、話はここまで。俺はトランス・デーモンを召喚！更に効果発動！暗黒界の刺客カーキを捨て、攻撃力を500アップ！」

トランス・デーモン ATK1500↓2000

「暗黒界の刺客カーキの効果、手札から墓地に送られた時、相手モ

ンスターを一体破壊する。俺はクリムゾン・シャドーを破壊！」

「バカが、クリムゾン・シャドーの効果発動！オーバーレイ・ユニットを取り除き、忍者の破壊を防ぐ！」

クリムゾン・シャドー（Oru2↓1）

「なるほど、そういう能力か。なら問題ない。ブラック・ミストでクリムゾン・シャドーを攻撃！ブラック・ミストの効果、オーバーレイ・ユニットを一つ取り除くことで、攻撃対象の攻撃力を半分にし、その数値分アップする！」

クリムゾン・シャドーATK2400↓1200

ブラック・ミストATK100↓1300

「ぬう…ならば、もう一度効果発動！」

クリムゾン・シャドー（Oru1↓0）

成金金造LP6400

「これで邪魔がなくなった。トランス・デーモンで成金忍者を攻撃！」

不気味な笑みを浮かべた悪魔が、忍者を切り裂く。

「俺はカードを伏せ、ターンエンド。」

四条銀次LP9100

手札0枚

「わ…わしのターン！わしはクリムゾン・シャドーを守備にし、モンスターをセット、カードを一枚伏せターンエンド！」「なら、そのエンドフェイズにサイクロン発動！お前の伏せカードを破壊する。」

「何！？」

破壊したカードはミラフォか、危ないな…

成金金造LP6400

手札一枚

「俺のターン、ドロロー！強欲なカケラのカウンターが一つのる。」
強欲なカケラ（1↓2）

「そして強欲なカケラの効果！カウンターが二つ乗ったこのカードを墓地に送り、二枚ドロロー！」

四条銀次

手札3枚

「トランス・デーモンの効果で、俺は暗黒界の武神ゴールドを墓地に送る。ゴールドの効果、手札から墓地に捨てられた時、特殊召喚する。」

暗黒界の武神ゴールドATK2300

トランス・デーモンATK1500↓2000

「終末の騎士を召喚。効果発動。デッキから闇属性のモンスターを墓地に送る。冥界の魔王ハ・デスを墓地へ！」

終末の騎士ATK1400

「更に、墓地の三体の悪魔を除外し、ダーク・ネクロフィアを特殊召喚！」

ダーク・ネクロフィアATK2200

人形を持った、俺のお気に入りのおモンスターが現れる。

「なんだ、その気味の悪いモンスターは…」

金造が震えながら言う。「失礼な。こいつの良さが分らんか!!」
同意を求めようと、奏太達の方を見ると、

「嫌、こええよ。銀さん。」

「ひいいい…」

こんな反応が返って来た。畜生、泣きたくなってきた…。

「と、とりあえず、ネクロフィアでクリムゾン・シャドーを攻撃！
念眼殺！」

ネクロフィアが、目を見開くと、クリムゾン・シャドーが燃えて消えた。やっぱりカッコいいと思うんだが…。

「トランス・デーモンで伏せモンスターに攻撃！」

リバースモンスターは青い忍者。この状況じゃ無意味か。

「いけ！ゴルド、ブラック・ミスト！」

「ぐあああ!!」

成金金造LP6400↓2700

「俺のターンは終了。さて、お前の力を見せてみろ！」

「く、わしのターン!…このグズが！」

そう言って、金造はカードを握り潰した。

「自分のカードを…」

「黙れ！わしの役に立たぬカードなどゴミ以下！こうして当然じゃ
!!」

醜く吠える金造。

「わしはターンエンド！」

成金金造LP2700

手札一(二)枚

「…俺は、お前に対して少し甘かったらしい。俺のターン！俺は、
魔法カード、受け継がれる力を発動！ゴルドをリリースし、その攻

撃力分の数値をネクロフィアに与える!!」

ダーク・ネクロフィア ATK 2200 ↓ 4500

「攻撃力：4500!？」

「カードをグズ扱いするお前に、デュエリストを名乗る資格は無い!! 行け、ダーク・ネクロフィア!! 念眼殺!」

「ぐおおおお!」

成金金造 L P O

——闘いの、幕が閉じた。

第2話 「No.」のカード（後書き）

初のデュエルパート、

いかがだったでしょうか？

忍者はこんなに弱くない！！と、思う方。今回はただのネタキャラ（名前的にも）なので、ご勘弁下さい。

何故か成金↓上から目線↓殿様↓家来の忍者という。図式が出来てしまつて：

ちようにど忍者のNo.もあつたし。

次回は解決後、主人公達の謎に迫ります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8735z/>

遊戯王～Parallel Story～

2011年12月29日01時52分発行